

津和野町北部にある。津和野が形成した小氾濫原に面し、丘陵尾根筋の最縁辺部に位置する。現状は水田である。調査地背後の丘陵端部には民家・畑地・墓地があり、その付近に五輪塔や宝篋印塔の部材が確認できる。調査地の字名は塔ノ前、背後の丘陵端部は「有福寺」という字名である。これらの

島根・有福寺遺跡

- | | | |
|---|---------------|-----------------|
| 1 | 所在地 | 島根県鹿足郡津和野町大字中曾野 |
| 2 | 調査期間 | 一九九二年（平4）七月 |
| 3 | 発掘機関 | 津和野町教育委員会 |
| 4 | 調査担当者 | 北浦弘人 |
| 5 | 遺跡の種類 | 河道跡 |
| 6 | 遺跡の年代 | 一二世紀後半～一五世紀前半 |
| 7 | 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | |

字名は、共同葬祭地及び寺院を示すものと考えられており、後述する木簡とのつながりをもつものとして興味深い。なお、「有福寺」という名は永正九年（一五二二）の文書に記された宮座にみられることから、この宮座を支えた集落の中核が調査地周辺にあり、その初源は一二世紀後半にまで遡るのではないかと考えられる。また、この集落は金属生産に関わっていた可能性があることが「おおくじ」という名称から推定されるが、遺跡周辺から金属滓が多く採集されていることからこれは裏付けられよう。

遺跡は、圃場整備工事中に発見され、七〇㎡について調査を実施した。検出された遺構は河川跡のみで、長さ一〇・二五m以上、幅四m、深さ平均二〇cm以上のものであったことが判明した。断面形は緩やかな皿状を呈し、流れは西から東へ向かっていた。堆積土は、河川埋土である黒褐色粘質土とそれを覆う灰褐色礫混じり粘質土・黒茶灰色粘質土である。遺物は、河川埋土のほぼ全域と河川外からも出土しているが、河川上流側中央付近で遺物の集中密度が高かった。木簡は排土中からの出土である。

出土遺物は一二世紀後半～一四世紀前半のものを主として、一五世紀前半あたりまでのものを含んでおり、時期幅がみられることから長年の廃棄などにより堆積した状況と思われる。

8 木簡の釈文・内容

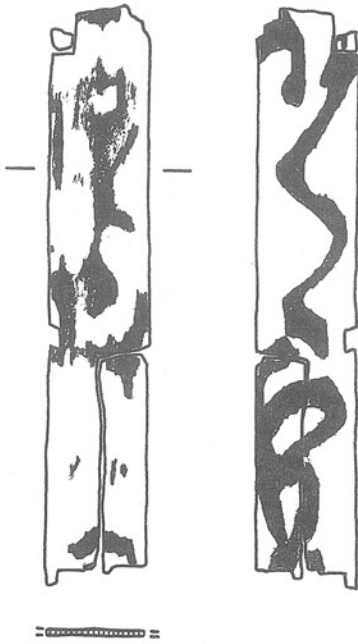
1111

1111

厚さ〇・五mmと非常に薄く、両面に墨書されていることから、単なる削屑ではなく、柿経の一部である可能性がある。両面の墨書はいずれも判読不能である。

今回の報告にあたり、鳥根県埋蔵文化財調査センターの平石充氏、調査担当者で現在鳥取県埋蔵文化財センターの北浦弘人氏からご教示を得た。

津和野町教育委員会『有福寺遺跡発掘調査概要報告書』（一九九四年）（宮田健二）



1 所在地 島根県鹿足郡津和野町大字高峯

3 発掘機関
津和野町教育委員会

4 調査担当者 北浦弘人

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 縄文時代早期～江戸時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

高田遺跡は、津和野町の中心街から南西に直線で約2kmの地点にあたる。休火山雲井峰により形成された扇状地地形上に立地し、津



(津和野)

和野城を北東側の山嶺に望む位置にある。津和野城は元来三本松城といい、正中元年（一三二四）に吉見頼直によって築城されたと伝えられる。吉見氏の居館については、現在までのところ所在地不詳であるが、津和野城山の山麓部で、高田